

# ウェブサイトを使いこなそう

～便利だけど落とし穴が！～

## 1. ウェブサイト ～特徴をつかもう～

調べるときには何も考えずにパソコンやスマホでウェブサイトを検索してしまうあなた、ちょっと待って！

ウェブサイトにも、得意分野（良い点）、不得意分野（弱点）があります。それを踏まえてウェブサイトを使いましょう。



<良い点>	<ul style="list-style-type: none"><li>○すぐに最新情報を載せることができる</li><li>○簡単に検索でき、必要な所を探しやすい</li><li>○音声や写真、動画を見ることができる</li><li>○大量のデータを載せることができる</li></ul>
<弱 点>	<ul style="list-style-type: none"><li>●誰が書いているのかわからない情報も多い</li><li>●信頼できない情報も多い</li><li>●検索結果が多すぎて選びきれないこともある</li><li>●電源や端末（パソコンやスマホ）がないと見ることができない</li></ul>

## 2. 情報を見極める ～「か・ち・も・な・い」サイトに引っかかるな！～

次に、弱点にひっかからないようにするためには、どういったことに注意してウェブサイトを見たらいでしょうか。ウェブサイトでチェックすべき点を以下に書きました。

キーワードは「か・ち・も・な・い」です。

- か** いた人は誰か？
- ち** がう情報と比べたか？
- も** とネタは何か？
- な** んの目的で書かれたのか？
- い** つの情報なのか？



菱沼典子「地域住民のヘルス・リテラシー向上に寄与する アクティブ・ラーニング教材の開発」

（『平成 25 年度～平成 27 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 研究結果報告書』をもとに作成）

次ページからは、具体的にどういった点に気をつけたらいいかを見ていきましょう。

か

<書いた人は誰か？>

まず、だれが書いたかを確認しましょう。  
書いた人がわからない場合は、別のサイトを調べましょう。  
できるだけ、専門家が書いたサイトで調べましょう。

※どこを見ればわかる？

トップページの下のほうや隅のほうに…  
「このサイトについて」「管理者」「問い合わせ先」「著作権」  
「About us」「copyright」 などを探し、クリックしてみよ

ち

<違う情報と比べたか？>

1つのサイトだけではダメ！ 複数のサイトを調べ、同じ点・違う点を比べましょう。もちろん、書いた人が違うサイトですよ。

も

<もとネタは何か？>

・だれが書いたかを確認しましょう。

書いた人がわからない場合は、別のサイトを調べましょう。  
出来るだけ、専門家が書いたサイトで調べましょう。

・引用先や参考文献も見てください。

引用や参考文献が書いてある場合は、必ずもとのサイトや本を確認しましょう。都合よく書き換えている場合もありますよ。  
逆に、参考文献や引用がまったくないサイトには注意！  
書いた人の思い込みで、間違いが多い可能性が高いのです。

な

<何の目的で書かれたのか？>

例えば販売目的のウェブサイトは、売るために都合がいいデータしか載せません。  
見ているサイトはどんな目的で書かれたのでしょうか？最後まできちんと読み込みましょう。

い

<いつの情報か？>

「更新日」を確認しましょう。古い情報は、現在とは違う可能性があります。

サイトに引っかかるな！

### 3. ウェブサイトを検索しよう ～検索のコツ～

#### <その単語（言葉）は大丈夫？>

検索の言葉をちょっと変えてみると、求める情報が出てくるかもしれません。  
様々な言葉で検索してみましょう。

#### <同じような意味だけど別の言葉を探したいときは、『類語辞典』を使おう>

『類語辞典』は、普通の国語辞典のような本の形式もありますが、インターネットでも検索ができます。（例：Weblio 類語辞典 <https://thesaurus.weblio.jp/>）

例) 「エンジン」を Weblio 類語辞典で調べてみると…

「発動機」「原動機」「機関」「電動機」が検索されました

#### <一部があやふやなときは、\*（半角のアスタリスク）を使おう>

例えば、ことわざで「人のうわさも…日」。何日だったかな？ というような場合に  
使えます。検索するときには  と入力します。

#### <検索結果を絞り込みたいときは？>

検索すると、ものすごくたくさんサイトの検索されますが、検索結果が少なければ、確認するサイトの数も少なくなります。少ない労力で求めるサイトを探すためのちょっとしたコツをコラムにまとめました。

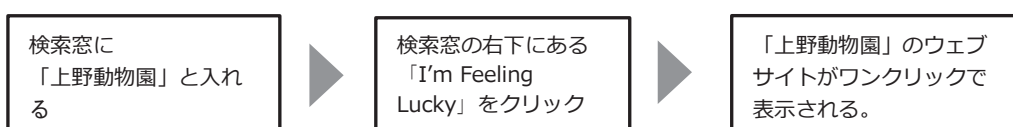




コラム「検索の小ワザ」へ

#### <固有名詞（会社名など）のウェブサイトを一発で表示する裏ワザ（Google 限定）>

Google の検索窓にキーワードを入れて「I'm Feeling Lucky」をクリックすると、1回でウェブサイトが表示されます。

例：上野動物園のサイトを見たい。




**<コラム> 検索の小ワザ**
  
 ～インターネット検索でも、本の蔵書検索でも使えます～

パソコンを使って調べると便利な点として、「検索が手軽になった」ことがあります。Google や Yahoo!などの検索サイトを使って検索すると、ほんの数秒で数えきれないほどの検索結果が出てきます。

しかし、自分が求めている情報かどうか確認するのは検索結果が多いほどたいへんなものです。では、どうしたら検索結果を減らし、かつ自分が求めるサイトを見つけることができるでしょうか。

以下のように、単語をかけ合わせて検索すると、自分が求める情報が比較的簡単に出てきますよ。

検索方法	説明	入力例	入力例の意味
AND検索	2つ以上のキーワードを含むウェブサイトを検索する方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">犬 猫</div> キーワードの間にスペース(空白)を入れる	「犬」と「猫」の <b>両方を含む</b> ウェブサイトを探す
NOT検索	検索結果に加えたくないキーワードを除く検索の方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">図書館 -本</div> スペース (空白)の後に- (半角のマイナス)を入れる	「図書館」に関するウェブサイトの中から「本」について <b>書かれていない</b> ウェブサイトを探す
OR検索	2つ以上のキーワードのうち「どれかひとつでも入っている」ウェブサイトを検索する方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日本 OR ドイツ</div> キーワードの間にOR (半角大文字) を入れ	「日本」または「ドイツ」の <b>どちらか一方でも入っている</b> ウェブサイトを探す
完全一致検索	入力したキーワードに一致するものだけを検索する方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">"東京大学"</div> キーワードの前後に" "(引用符)を入れる	「東京大学」と <b>書いてあるウェブサイトだけ</b> を探す  「東京の大学」、「東京〇〇大学」などは検索結果に含まれない